

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	青少年の社会参加・体験活動の機会づくりに要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	4	1	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	135青少年の健全育成	担当課室長	青木 真也			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	青少年関係団体間の連携をより推進し、事業のさらなる充実化を図っていく。また補助金交付団体に対し、「ふるさと意識醸成(やがて故郷に変わる街の実現)」に繋げるため、青少年の思い出づくりの積み重ねを視点すべく意見交換を実施し、事業の有効性を高める。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	地域及び関係団体が連携し、子ども達に様々な体験を提供することで、ふるさと意識醸成や各事業の効率性を高める。
②①に基づく取組み結果	鎌ヶ谷に住み続けたいというふるさと意識醸成に繋げるため、子ども会とタイアップし、地域の資源を活用したリアルな職業体験「まちまるごとKids@Live」を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	青少年及び関係団体	意図(対象をどうするのか)	青少年健全育成及び団体の活性化
②事務事業の概要	青少年への自然体験・社会体験の機会提供及び地域ボランティア、関係団体の活動支援			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	家庭状況の変化等で、青少年の異年齢交流、自然及び社会体験等の社会形成に必要な機会が減少し、その機会を事業として求めるニーズは年々高まっている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	近年、会員数の減少等が問題となっている子ども会とのタイアップ事業を展開することで、子ども会事業の更なる魅力の向上と地域資源を活用したリアルな職業体験「Kids@Live」を試行的に実施した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i 元気っ子ゼミナール参加者数	48	58	59	人	業務取得
	ii 成人の日記念行事実行委員会議数	12	13	24	回	業務取得
	iii 各団体活動数	154	151	152	回	業務取得
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算	
事業費(千円)	5,580	6,829	金額(千円)		内容	
			960	成人式会場設営等委託		
国支出金(千円)			357	成人式記念行事実行委員会負担金		
県支出金(千円)	235	235		235		
市債その他(千円)			2,408	青少年教育関係団体等活動補助金		
一般財源(千円)	5,345	6,594		5,435		

IV 評価・検討

①課題	社会の規範意識が希薄化する中、地域全体の教育力での青少年の育みが重要視されており、熱意ある地域の支援者及び団体の確保が課題である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	コストを抑えつつ質の高い事業の実施に向けて、団体・ボランティア等が効果的な補助金活用しているか精査を要する。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H27からの繰越	
		H27⇒28繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由			流用・充当			
	平成29年度への繰越額(単位:千円)					

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	非行防止対策の推進に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	4	5	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	135青少年の健全育成	担当課室長	大関 克由			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	地域等との連携を強化し「こども110番の家」の設置の啓発に努め、増設を図る。学校開放事業の運営委員会の中で「子ども安全メール」の実績を紹介するとともに、登録の啓発を行う。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	地域等との連携を強化し「こども110番の家」の設置の啓発に努め、増設を図る。学校開放事業の運営委員会の中で、「子ども安全メール」の実績を紹介するとともに、登録の啓発を行う。また、子どもを取り巻く環境として、インターネットをめぐる問題があり、職員等の研修を行う。新たに、子どもの見守り意識醸成のための取組みを策定する。
②①に基づく取組み結果	2事業について、新たに自治会回覧を行い、市内全域において、新規の登録を募った結果、ともに昨年度に比べて増加が図れた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内の青少年	意図(対象をどうするのか)	①非行の早期発見、早期指導により青少年の非行を防止する②速やかに情報を発信し青少年の安全確保を図る。
②事務事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの非行防止を図るため、定時パトロール、夜間パトロール、市内一斉パトロール等を行う。 子どもたちの安全確保を図るため、子ども安全メールにより情報を発信する。 			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	<ul style="list-style-type: none"> 小中学生による殺人事件の発生等、犯罪、非行の低年齢化が進んでいる反面、小中学生が犯罪被害者となる事件が数多く発生している。 子ども安全メールの発信に伴う、情報提供の迅速化や「こども110番の家」の増設の要望がある。 			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	補導、相談等の活動において青少年非行の早期発見、早期指導を実施することにより、青少年の健全育成の向上が図られた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	子ども安全メール登録者数	5,786	4,784	5,543	人	業務取得
	ii	地域見守り活動従事者数	1,187	1,161	1,234	人	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算		
事業費(千円)	8,367	6,383	金額(千円)	内容		7,178	
国支出金(千円)			150	青少年センター運営協議会委員報酬			
県支出金(千円)	250	250	680	青少年補導員報酬		250	
市債その他(千円)			185	青少年センターだより「緑の子」印刷			
一般財源(千円)	8,117	6,133	176	青少年補導員連絡協議会補助金		6,928	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	今後ますます低年齢層による非行が増加するとともに、犯罪被害者となるケースも増えると思われる。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	家庭、学校、地域又関係機関との連携を図りながら、補導活動への協力や子どもたちの安全に関心を持ってもらうなど地域ぐるみで子ども達を見守り、子ども達が心身ともに健康で安全な生活を送れる環境をつくった。今後は、より全体的に見守り意識醸成を広げるべく、取組みを検討する必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績	0	当初		0
		H27⇒28繰越		
③達成状況		補正		現年分
④未完了・非着手の理由	平成29年度への繰越額(単位:千円)			